

# 大人になる君へ 社会で役立つ 契約知識



# 目次

■ 高等学校における新学習指導要領からみる消費者教育の進め方 .....	－ A 2 －
■ Web版教材の概要と使い方 .....	－ A 3 －
■ Web版教材を活用した授業展開例とワークシート	
公民編 .....	－ A 7 －
家庭編 .....	－ A12 －



# 高等学校における新学習指導要領からみる 消費者教育の進め方

玉川大学 教育学部 教授 樋口 雅夫

2022年4月から、高等学校において年次進行で学習指導要領（平成30年告示）が実施されます。学習指導要領とは、全国的に一定の教育水準を確保するとともに、実質的な教育の機会均等を保障するために国が学校教育法に基づき定めているもので、小中高の各学校が編成する教育課程の基準となるものです。社会や子供たちを取り巻く環境の変化などに伴い、これまでおおむね10年に一度改訂されてきています。今次改訂で注目されたのは、18歳という年齢、そして高等学校教育でした。これは、民法改正に伴い、2022年4月から成年年齢が18歳に引き下げられることへの高等学校教育での対応が強く意識されたことによるものです。大人である18歳（おおむね高校3年生）になるまでに、どのような資質・能力を身に付けておくことが必要か、との観点から、家庭科や公民科をはじめとする各教科等の目標・学習内容が系統的に整理され、消費者教育の充実等を含む大幅な改訂が行われたのです。

学校における消費者教育では、「だまされない消費者」を育むことは欠かせません。しかし一方で、「だまされない」だけでなく、自立した消費者、消費者市民社会の形成に資する消費者を育むことも、あわせて期待されています。

学習指導要領（平成29年告示）では、中学校技術・家庭科（家庭分野）で「クレジットなどの三者間契約」や「自分や家族の消費生活が環境や社会に及ぼす影響」などについて、また、中学校社会科（公民的分野）で「個人や企業の経済活動における役割と責任」や「消費者行政」などについて扱われています。

このような義務教育における学習の基礎の上に、高等学校家庭科の選択必修科目である「家庭基礎」では、「様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う」との科目目標が規定されています。ネットショッピングやキャッシュレス決済などの身近な消費生活をイメージしながら、未成年と成年の法律上の責任の違い、若者に多い契約トラブルの現状と課題、クーリング・オフの条件と手段、安全で豊かな消費生活を送るための法制度などについて学習していきます。あわせて、万が一トラブルに巻き込まれてしまった場合、消費生活センター等に相談することの大切さについても学びます。

また、高等学校公民科の必修科目「公共」では、「多様な契約及び消費者の権利と責任」などの主題を設け、自己と社会との関わりを踏まえ、社会に参画する主体として自立することや、他者と協働してよりよい社会を形成すること等について考察していきます。具体的には、幸福、正義、公正などの見方・考え方を働かせて契約に関する知識を習得させるとともに、全ての人は自由で平等な人格であり権利・義務の主体であること、自らの意思に基づいて決定した結果に対して責任を負わなければならないこと、所有権などの財産的権利を侵害されないことなど私法に関する基本的な考え方を理解させた上で、自主的かつ合理的に社会の一員として行動する自立した消費者を育成することが目指されています。

さらに、家庭科や公民科といった教科学習に加え、特別活動などの時間を使って学年全体で消費者教育を進めることも求められます。その際、「社会に開かれた教育課程」の理念に基づき、消費者行政や消費者教育の専門家が作成した副教材・副読本などを活用することで、全ての教師が効果的な消費者教育に取り組めるようになることが期待されるのです。

# Web版教材の概要と使い方

本教材はインターネットにつながる端末（パソコン・タブレット等）があれば、どこでも学習できます。

## ●Web版教材作成の趣旨

契約に不慣れな若者層が、今後さまざまな契約に直面した時に判断基準となる法律の考え方を学習することで、事業者からの説明を鵜呑みにせず批判的思考をもって判断することを目的に作成しています。

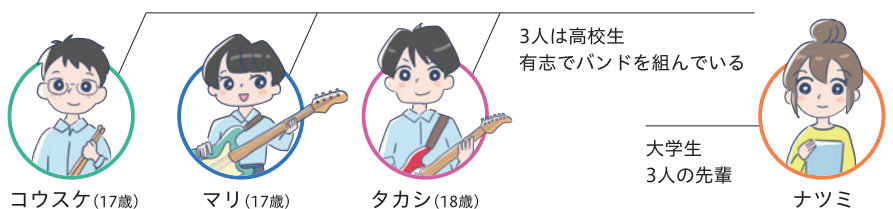
## ●Web版教材の概要

- 第1章、第2章の事例をもとに、ナツミを指南役として、3人の高校生がなぜ契約には法的拘束力が生じるのか、契約の取消しや無効、法定解除について考えることで、**法律の考え方**を学習していきます。
- 第3章では、若者に多い契約トラブル事例を学び、今まで学習した法律の基礎知識をもとに、**トラブルにあったきっかけや原因**を考えます。そしてどのように**トラブルを回避できるのか**、また**被害にあった場合の対処方法**を学習します。
- 設問に対して、生徒が画面に答えを入力することで解説を読むことができるという、**生徒参加型の仕組み**を取り入れています。

## トップページ



## 登場人物



## 第1章 契約ってなに？

### 第1部 オリジナルパーカーを作りに行こう！

- ・第1部のトップ
- ・なぜ希望通りに解約できないの？
- ・クイズ | この契約はいつ成立したのでしょうか？

### 第2部 契約するときは、ここに注意！

- Q1：オリジナルパーカーを作るために、どういう視点でお店を探していましたか？
- Q2：3人は、お店で何を聞いていますか？
- Q3：注文書の控えをもらっていましたか？
- Q4：3人は、なぜ一方的にキャンセルができず、仕方なくオリジナルパーカーを依頼したのでしょうか？
- ・まとめ



## 第2章 契約は守るもの！ だけど

### 第1部 契約はやめられるの？

- ・第1部のトップ
- ・未成年者取消権
- ・もっと知りたい2-① 未成年者取消権が使えない場合
- ・もっと知りたい2-② チャレンジクイズ!! 契約の取消し・無効になる場合

### 第2部 相手が契約を守ってくれなかったら…

- ・第2部のトップ
- ・もっと知りたい 法定解除



## 第3章 若者に多い契約トラブル事例

- ・第3章のトップ
- ・事例① 無料？ 就活セミナーに行ってみたら…。
- ・事例② 脱毛エステに行ったら…。
- ・事例③ 友人から投資話に誘われて…。
- ・事例④ モデルオーディションに合格したら…。
- ・チャレンジクイズ
- ・もっと知りたい
- ・全体のまとめ

## 付属資料

### ●もっと知りたい 解説書（PDF）

生徒と教員の共用資料です。

- ・Web版教材に沿って分かりやすく解説をしています。

### ●先生のページ

- ・高等学校における新学習指導要領からみる消費者教育の進め方
- ・Web版教材と学習指導要領（平成30年告示）との照合（【公民編】【家庭編】）
- ・Web版教材を活用した授業展開例と加工可能なワークシート（【公民編】【家庭編】）



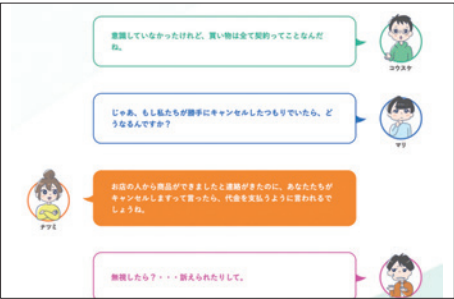
# 第1章 契約ってなに？

## 第1部 オリジナルパーカーを作りに行こう！

3人の高校生が文化祭に向けてオリジナルパーカーを作るという事例をもとに、契約には、なぜ法的拘束力が生じるのかを、先輩のナツミが指南役となって、みんなで考えていきます。

### 1 契約を結ぶまでの行動を「漫画」で展開

- 内容のポイント 日常生活にあふれている契約の一例を紹介し、生徒自身に普段から契約を行っているという認識を持たせます。
- 操作のポイント 画面をスクロールすると、漫画がポップアップして次々表示されるため、スピード感をもって展開を追うことができます。



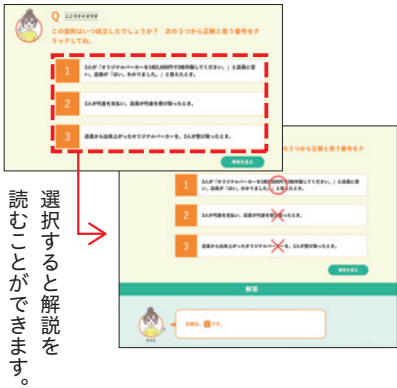
### 2 法的拘束力について「会話形式」で展開

- 内容のポイント

契約を結ぶと、権利と義務が発生し、その内容に拘束される（法的拘束力）という、契約の基礎的な考え方を学びます。  
ナツミと3人の高校生が、会話形式で自由に発言しながら、契約について、生徒の理解を深めていきます。

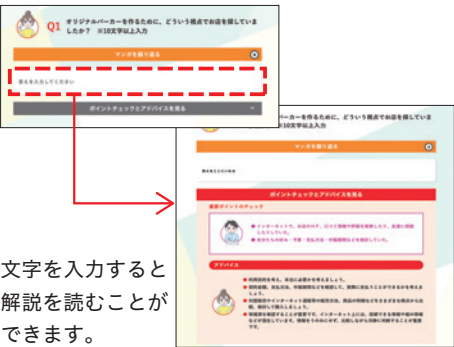
### 3 契約成立について「クイズ」で展開

- 内容のポイント 漫画で展開した事例について、いつ契約が成立したか、どのような権利と義務が発生するかを学習します。
- 操作のポイント 生徒自身が契約成立についてのクイズに解答するとアニメーション付きの図が入った解説を読むことができる仕掛けがあり、生徒の学習意欲を高めます。



## 第2部 契約するときは、ここに注意！

第1部での行動をもとに、第2部では契約するときの注意点を生徒自身が漫画を振り返りながらまとめていく参加型の仕組みになっています。



文字を入力すると解説を読むことができます。

### 第1部を「ワーク形式」で振り返り

- 内容のポイント
- 操作のポイント

生徒自身で漫画を見ながら、契約するときのポイントを整理できます。  
解答を画面上に入力するとポイントチェックとアドバイスが見られるという生徒参加型の仕掛けによって、学習を促します。

# 第2章 契約は守るもの！ だけど

## 第1部 契約はやめられるの？

**未成年者取消権**に関する事例をもとに、契約には法的拘束力があるが、民法ではなぜ未成年者取消権を規定しているのかについて、ナツミを中心にみんなで考えていきます。ほかにも学習を深めたい生徒用に「もっと知りたいページ」を設け、契約にしばられるべきではない場合（取消し・無効）を学習します。



### 未成年者取消権について身近な事例を取り上げ、「漫画」や「会話形式」で展開

内容のポイント

**未成年者取消権に関する事例**を通して、同じ高校3年生でも未成年者は法律で保護されていること、成人になると自分で結んだ**契約に責任が生じる**ことを学習します。

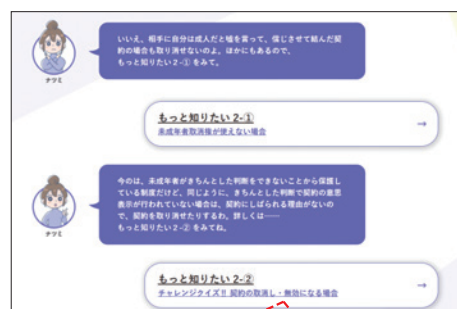
## 取消し・無効について「もっと知りたいページ」を設定

内容のポイント

未成年者取消権以外にもある、契約の取消しや無効について学ぶことができます。

操作のポイント

「もっと知りたい」は、別ページに移動するので、意欲のある生徒が自由に閲覧し学習することができます。イラスト入りのクイズにチャレンジすることで、**自学自習でも解説を読みながら理解を深める**ことができます。またインターネットでの調べ学習用に課題も提示しています。



## 第2部 相手が契約を守ってくれなかったら…

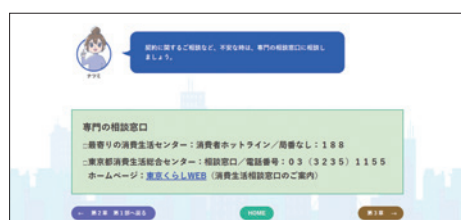
第1部とは一変して、法的拘束力のある契約であっても、解除できる場合（法定解除）があることを学習します。



### 法定解除について「イラスト入りのクイズ」で解説

内容のポイント

契約の基礎知識の一環として、法定解除について高校生に身近な事例をもとにクイズで学びます。第2部では画面の背景を変更し雰囲気を一変させて、法的拘束力のある契約であっても、解除ができる場合を学習します。



### 契約について困った時の「専門の相談窓口」を紹介

内容のポイント

困った時にすぐ相談できるように、消費生活センターの連絡先を紹介しています。

## 第3章 若者に多い契約トラブル事例

若者に多いトラブル事例を使って、第1章、第2章で学習した法律の考え方をもとにトラブルになったきっかけや原因を考えます。相談することが、自分のトラブルを解決するだけでなく、法改正につながるなどといった消費者市民の役割も担っていることを学習します。



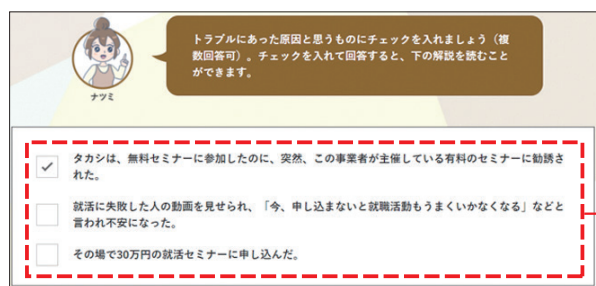
## トラブル事例の要点を 「チェックボックス」で整理

## 内容のポイント

今まで学習した法律の基礎知識をもとに、若者に多い4つのトラブル事例をイラストを交えて学習します。なぜトラブルにあったのか、そのきっかけや原因を振り返り、**若者の被害防止**につなげます。

## 操作のポイント

チェックボックス形式で、事例のポイントを整理することができます。チェックを入れると解説と一言アドバイスを読むことができ、トラブルを回避するポイントを学習することができます。



チエックを入れると  
解説を読むことができます。

## 特別法(特定商取引法・消費者契約法)について

## 内容のポイント

チャレンジクイズでは、特定商取引法のクーリング・オフ制度と消費者契約法の取消しに関する事例を取り上げています。第1章・第2章で学習した民法の考え方を踏まえ、事例を通して特別法がなぜ必要なのか、その意義を学習します。



## 全体のまとめ

## 内容のポイント

全編を通してのまとめです。民法の考え方や特別法の意義を学習します。そして消費生活センターに相談することは、自分の被害救済のためだけではなく、社会へ貢献する消費者市民としての役割を担っていることを学びます。



もっと知りたい 解説書(生徒と教員の共用資料です。)



授業展開例やワークシート一部抜粋して表示





# Web版教材を活用した授業展開例とワークシート

## 公民編

東京都立蒲田高等学校 主幹教諭 浅川 貴広

### (1) 高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説公民編における主な消費者教育の内容

科目		内容	
公民	公共	B 自立した主体として よりよい社会の形成に参画する私たち	(1) 主として法に関わる事項 多様な契約及び消費者の権利と責任 (3) 主として経済に関わる事項 市場経済の機能と限界
	政治・経済	(1) 現代日本の政治・経済	(1) 現代日本の政治・経済 イの（エ）

### (2) 高等学校「公民」における消費生活に関わる内容と本教材との照合

#### 「公共」

内容B 自立した主体として よりよい社会の形成に 参画する私たち		Web版教材を使用した授業		
		第1章 契約ってなに？	第2章 契約は守るもの！ だけど	第3章 若者に多い 契約トラブル事例
		学習項目（キーワード）		
(1) 主として法にかかわる事項 多様な契約 及び消費者の 権利と責任	多様な契約	・契約 (契約自由の原則) ・債権と債務 ・民法	未成年者取消権	
	消費者の 権利と責任	・消費者基本法 ・消費者契約法	・クーリング・オフ制度 ・製造物責任法（PL法） ・無過失責任制 ・消費者庁 ・国民生活センター ・消費生活センター ・消費者市民社会	・情報の非対称性 ・特定商取引法 ・消費者契約法 ・景品表示法
(3) 主として経済に関わる事項 市場経済の 機能と限界	市場経済	・市場経済 ・市場価格 ・価格の 自動調整機能	・非価格競争 ・独占禁止法 ・公正取引委員会	・市場の失敗 (情報の非対称性)

#### 「政治・経済」

内容（1） 現代日本の政治・経済		Web版教材を使用した授業		
		第1章 契約ってなに？	第2章 契約は守るもの！ だけど	第3章 若者に多い 契約トラブル事例
		学習項目（キーワード）		
(1) 現代日本の 政治・経済 イの（エ）	多様な契約	・依存効果 ・デモンストレーション効果 ・消費者基本法 ・消費者契約法	・消費者の4つの権利 ・クーリング・オフ制度 ・製造物責任法（PL法） ・グレーゾーン金利	・消費者主権 ・消費者庁 ・特定商取引法 ・消費者契約法



### (3) Web 版教材を活用した授業展開例及びワークシート

#### 授業展開例① 第1章「契約ってなに？」 第2章「契約は守るもの！ だけど」

●**題材名** 多様な契約

●**本時の目的**

- ・実際に若者に多いトラブル事例をもとに、注意すべき点を理解する。
- ・今後、消費者トラブルに遭った際の対処法を学習する。

#### ●指導展開例

時間	主な活動	指導上の留意点	教材・資料
導入 5分	発問 普段の生活の場において、どのような 場面で「契約」をしているか。	●日々の買い物や、公共交通機関の利 用等、様々な場面で契約が生じるこ とに気づかせる。	
展開① 20分	●Web版読本第1章第1部「オリジ ナルパーカーを作りに行こう！」を 読み、クイズに答える。 ●第1部の学習内容をワークシートに まとめる。 ●第2部「契約するときは、ここに注 意！」の4つのクイズに取り組み、 第1章のまとめを、ワークシートを 通じて行う。	●教材に取り組む前に文化祭でのTシャ ツづくり等を例に発問し、何を基準 にお店を選ぶかを考えさせる。 ●「契約」を守ることが経済活動の根 幹にあることを理解させる。 ●契約を結ぶことで法的な責任を負う ことになるため、慎重に検討するこ とを理解させる。	ワークシート① Web版教材 第1章
展開② 20分	●第2章第1部「契約はやめられる の？」を確認し、未成年者取消権に ついて学習する。 ●「もっと知りたい2-①」の内容をワ ークシートでまとめ、クイズに取り 組む。 ●「もっと知りたい2-②」の内容をワ ークシートでまとめ、契約の取消 し・無効になる場合を学習する。	●成年年齢の引下げと関連付けて学習 させる。 ●未成年者取消権はすべてで有効では なく、例外が存在することを理解さ せる。 ●契約を結ぶと原則として、それを守る 義務が発生するが、例外もあり、トラ ブルに遭った場合等は消費生活セン ター等に相談するように指導する。	ワークシート① Web版教材 第2章
まとめ 5分	学習内容をまとめ、ワークシートに授 業を受けて考えたことをまとめる。	今後の消費行動において気をつけるべ きことを意識させ、共有する。	

【公民】ワークシート④ 第1章「契約ってなに？」 第2章「契約は守るもの！ だけど」

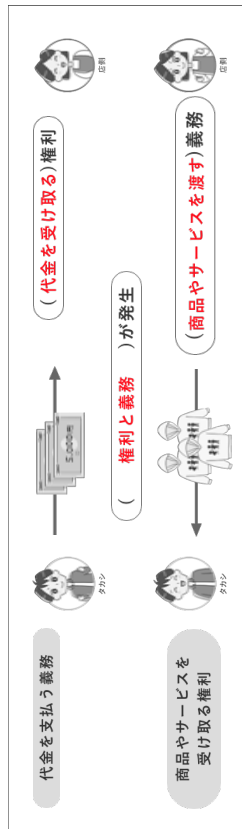
年 組 名前（ ）

【導入 ～「契約」はどこでしている？～】

どのような場面で「契約」をしているかあげてみよう  
ヒント 学校に来るまでもたくさん「契約」が存在しているよ

### 【第1章 第1部 オリジナルパーカーを作りに行こう！】

- 契約が成立すると・・・



- 契約については私人間の関係を定める（民法）で定められている  
→ 契約で合意したことを守ることは、経済活動の基本となる

### 【第1章 第2部 契約するときは、ここに注意！】

Q1 オリジナルパーカーを作るために、という視点でお店を探していましたか？

（例）・インターネットで、お店のHP、口コミ情報や評価を検索したり、友達に相談したりしていた。  
・自分たちの好み・予算・支払方法・作製期間などを検討していた。

Q2 3人は、お店で何を聞いていますか？

（例）・パーカーの生地や色合い、デザインなどについてお店の人と相談していた。  
・店舗から金額、作製期間、デザイン変更の条件やキャンセルについてなどの契約内容を聞いていた。

Q3 注文書の控えをもらっていましたか？

（例）・お店の住所や電話番号、契約内容などが記載されている注文書の控えを受け取っていた。

Q4 3人は、なぜ一方的にキャンセルができず、仕方なくオリジナルパーカーを依頼したのでしようか？

（例）・注文書に記載があるように、注文確定後のキャンセルはできないため、そのまま作ってもらったことにした。

＜第1章まとめ＞

- 本当に必要な契約かどうかを検討しよう。
- 契約する相手は、（特定ができ、信頼できる）かどうかを検討しよう。
- 契約するものやサービスの内容、支払金額、支払方法、解約条件など、（契約内容）を検討しよう。
- 契約内容がわかる（書面、注文書）などの控えや（事業者情報）は手元に持っておきましよう。
- インターネット通信販売の場合、原則、画面上に契約内容を表示することが義務付けられています。事業者情報や契約内容がわかる画面、申込画面や事業者からの承諾メール等、画面のコピーをとっておきましよう。また、インターネット通信販売には（クーリング・オフ制度）がありません。返品条件なども確認して、検討しよう。

### 【第2章 第1部「契約はやめられるの?」】

（未成年者取消権）

未成年者が親の同意もなく契約した場合  
あとから取り消すことが出来る制度

2022年（令和4年）4月～

成年年齢が（18歳）になるため、  
18歳以上では未成年者取消権が行使できない。

くもっと知りたい2-① 未成年者取消権が使えない場合>

- 契約相手に（自分は成人だと嘘を言って）、信じさせて結んだ契約の場合
- 法定代理人の（同意を得ている）場合
- 未成年者がその後成人して（追認）したり、法定代理人が（追認）したりした場合
- 取消権が時刻になった場合

くもっと知りたい2-② 契約の取消し・無効になる場合>

- （錯誤）による取消し ● （詐欺）による取消し
- 強迫による取消し ● （公序良俗）違反による無効

### 【第2章 第2部「相手が契約を守ってくれなかったら・・・」】

くもっと知りたい 法定解除>

- （履行不能） 契約内容が実行される可能性が無い場合のこと
- （履行遅滞） 契約の期日までに契約内容が実際に行われなかった場合のこと
- （不完全履行） 契約内容は実行されたが、不完全な内容である場合のこと

【学習のまとめ】

学習内容を踏まえ、これから契約を結ぶ際に心がけたいことをまとめよう。

- （例）・契約内容をしつかりと確認してから、慎重に検討して契約を結ぶようにしたい。
- ・インターネットでの購入も増えている中で、何かあった際に対応できるように、契約内容や注文情報等の書面をしつかりと保管しておくようにしたい。
- ・契約トラブルが発生した場合は、消費生活センターに相談するようにしたい。

### 専門の相談窓口

- 最寄りの消費生活センター：消費者ホットライン/局番なし：188
- 東京都消費生活総合センター：相談窓口/電話番号：03（3235）1155
- ホームページ：東京くらしWEB（消費生活相談窓口のご案内）

## 授業展開例② 第3章「若者に多い契約トラブル事例」

●**題材名** 多様な契約及び消費者の権利と責任

●**本時の目的**

- ・実際に若者に多いトラブル事例をもとに、注意すべき点を理解する。
- ・今後、消費者トラブルに遭った際の対処法を学習する。

●**指導展開例** 次の指導案については、50分授業全体を想定したものではなく、授業時間内で授業実態や進度等に応じて適宜活用できるものとしている。

### ■ 契約トラブル事例①～④

時間	主な活動	指導上の留意点	教材・資料
<p>時間の目安</p> <p>1事例あたり 5～10分</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●Web版読本第3章「若者に多い契約トラブル事例」の契約トラブル事例（①～④）を確認する。</li> <li>●解説を読む前にワークシートを用い、何がトラブルの原因であったか、どのようにすればトラブルを防げたかをまとめる。</li> <li>●解説を読み、合わせてまとめを確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●実際に多く寄せられる相談であることを伝え、当事者意識を持たせる。</li> <li>●事例を通じて、将来自身が気をつけるべきことに気づかせる。</li> <li>●解説とまとめを通じ、消費生活センター等に相談することは自身の救済だけでなく、さらなる被害防止につながることを理解させる。</li> </ul>	<p>ワークシート②</p> <p>Web版教材 第3章</p>

### ■ チャレンジクイズ①～⑤

時間	主な活動	指導上の留意点	教材・資料
<p>時間の目安</p> <p>1問あたり 5分程度</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●Web版読本第3章「若者に多い契約トラブル事例①～④」チャレンジクイズ（①～⑤）に取り組む。</li> <li>●解説を確認し、ワークシートで学習内容を確認する。</li> <li>●解説と合わせてまとめを確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●契約トラブル事例同様、実際に多く寄せられる相談であることを伝え、当事者意識を持たせる。</li> <li>●チャレンジクイズ③(中古車)については、市場の失敗（情報の非対称性）とも関連づけて学習する。</li> <li>●解説とまとめを通じ、消費生活センター等に相談することは自身の救済だけでなく、さらなる被害防止につながることを理解させる。</li> </ul>	<p>ワークシート②</p> <p>Web版教材 第3章</p>

【契約トラブル事例】

事例① 就活セミナーでのトラブル

(何がトラブルの原因であったか?)

- (例) ・最初は無料のセミナーであったが、就職活動から不安になり、(内容をよく考えずに)有料セミナーにその場で申し込んでしまったこと

(事例を通じて考えたこと)

- (例) ・これから就職活動を行う際には起こり得ることなので、冷静に判断できるようにしたい。その際には、家族や友人等に相談する等、慎重に判断したい。
- ・契約トラブルに遭った場合は、一人で抱え込まずに、消費生活センターに相談もしたい。

事例② 脱毛エステでのトラブル

(何がトラブルの原因であったか?)

- (例) ・エステの効果が確実か不明にもかかわらず、嫌な雰囲気ですら契約をしてしまった
- ・月々の支払額のみを見て契約をしてしまった

(事例を通じて考えたこと)

- (例) ・エステ等では無料体験や非常に安価な初回施術があるが、事業者はその後の契約もきめて機曾を設けていることをよく考えて利用したい。
- ・契約の必要性等を様々な観点から検討して、契約を慎重に結ぶようにしたい。

事例③ 投資の勧誘をめぐるトラブル

(何がトラブルの原因であったか?)

- (例) ・マルチ商法の可能性があるにもかかわらず、その点を注意していなかった
- ・お金がないのに学生ローンを組んでまで、もつて話を利用しようとした

(事例を通じて考えたこと)

- (例) ・「簡単にもうかる話はない」ということを肝に銘じたい。
- ・マルチ商法は被害者だったはずの消費者が、今度は加害者になるものでもあるため、そのような話を受けた場合には消費生活センターに相談するようにしたい。

事例④ モデルオーディションでのトラブル

(何がトラブルの原因であったか?)

- (例) ・自分の憧れ等が先走り、契約の内容等をよく考えずに契約した
- ・「合格」と呼ばれることそのものに疑いを抱たなかったこと

(事例を通じて考えたこと)

- (例) ・SNSには、様々な広告が掲載されていたり、それによって勧誘されたりする場合もあるので、「うまい話」に裏がないか、批判的に考えるようにしたい。
- ・契約トラブルに遭った場合は、一人で抱え込まずに、消費生活センターに相談もしたい。

(どのようにすればトラブルを防げたか?)

- (例) ・申し込む場合でも、一度冷静になって考えるから判断するべきであった
- ・他の就活セミナーと比較したり、家族や友人等に相談したりすればよかった

【チャレンジクイズ】

チャレンジクイズ①

(確認事項)

- 街中や店舗以外の場所と呼び止められて、近くのお店などに連れて行き商品などの販売をする ( キヤッチセールス ) には、クーリング・オフ制度が適用される。

(事例を通じて考えたこと)

- (例) ・キヤッチセールスでの購入に際しては、クーリング・オフ制度が適用されることを覚えておきたいが、そもそもその場で契約せずに、冷静に判断してから契約したい。

チャレンジクイズ②

(確認事項)

- インターネットショッピングでは、クーリング・オフ制度が ( ありません ) 。

→返品に関することを広告に表示することになっているため、購入時にはよく確認する。

(事例を通じて考えたこと)

- (例) ・インターネットショッピングではクーリング・オフ制度がないことを覚えておくとともに、インターネットショッピングでは事業者や注文の内容等をしっかり確認しておきたい。

チャレンジクイズ③

(確認事項)

- ( 消費者契約法 ) では、「不実告知」により消費者が事実でないことを事実と誤認して契約した場合、取り消すことができる。とされている。

(事例を通じて考えたこと)

- (例) ・中古車市場では「情報の非対称性」が発生しやすいことを覚えておき、合わせて中古車等を購入する際には様々な情報を比較、検討して購入したい。

チャレンジクイズ④

(確認事項)

- ( 消費者契約法 ) では、事業者が将来の不確実なことを確実と誤認させ、消費者に購入させた場合は契約を取り消すことができるとされている。

(事例を通じて考えたこと)

- (例) ・消費者契約法における契約取消しの要件を理解しておきたいが、そもそも「絶対値上がりする」「間違いなくもうかる」等の「うまい話」はないことに気をつけたい。

チャレンジクイズ⑤

(確認事項)

- 消費者が事業者により、不利益な事実がないと誤認して契約をした場合、消費者契約法では「 ( 不利益な事実の不告知 ) 」として契約を取り消すことができると定めている。

(事例を通じて考えたこと)

- (例) ・不動産は大きな買い物なので、販売業者の比較、検討も必要であるが、トラブルに遭ってしまった場合の対処、そもそも消費者契約法で取り消せる場合があることを覚えておきたい。



# Web版教材を活用した授業展開例とワークシート

## 家庭編

東京都教育庁 指導部高等学校教育指導課 指導主事 宗川 良子

### (1)高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説家庭編における主な消費者教育の内容

科目		内容	
家庭	家庭基礎	C 持続可能な消費生活・環境	(1) 生活における経済の計画
			(2) 消費行動と意思決定
			(3) 持続可能なライフスタイルと環境
	家庭総合	C 持続可能な消費生活・環境	(1) 生活における経済の計画
			(2) 消費行動と意思決定
			(3) 持続可能なライフスタイルと環境
家庭	消費生活	(1) 経済社会の動向と消費生活	
		(2) 消費者の権利と責任	
		(3) 消費者と行政、企業	
		(4) 持続可能な社会を目指したライフスタイル	
		(5) 消費生活演習	

### (2)高等学校「家庭」における消費生活に関わる内容とWeb版教材との照合

「家庭基礎」を基に作成

内容C 持続可能な消費生活・環境		Web版教材を使用した授業		
		第1章 契約ってなに？	第2章 契約は守るもの！ だけど	第3章 若者に多い 契約トラブル事例
		学習項目（キーワード）		
(2) 消費行動と 意思決定	消費行動における 意思決定			
	契約の重要性	・ 契約 ・ 債権と債務 ・ 民法	・ 未成年者取消権	
	消費生活の 現状と課題			・ 問題商法 (悪質商法)
	消費者の 権利と責任	・ 消費者基本法 ・ 消費者契約法	・ クーリング・オフ制度 ・ 製造物責任法 (PL 法) ・ 消費者庁 ・ 国民生活センター ・ 消費生活センター ・ 消費者市民社会	・ 特定商取引法 ・ 消費者契約法

### (3) Web版教材を活用した授業展開例及びワークシート

#### 授業展開例① 第1章「契約ってなに？」 第2章「契約は守るもの！だけど」

●**題材名** 契約で成り立つ消費生活

●**本時の目的** ・契約に関する基礎知識を知り、契約内容等を確認することの重要性について理解する。

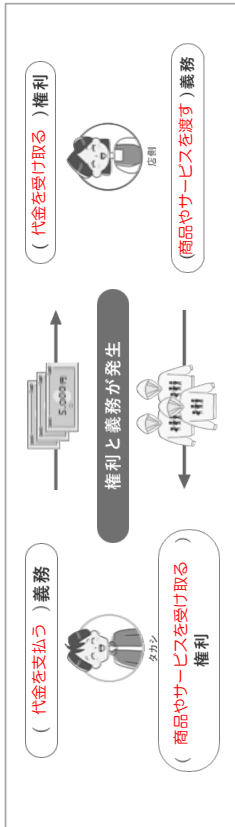
#### ●指導展開例

時間	主な活動	指導上の留意点	教材・資料
導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>●本時の目標について理解し、学習の見通しをもつ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●日常生活で身近にある契約について考えさせる。</li> </ul>	
展開① 20分	<ul style="list-style-type: none"> <li>●Web版教材第1章第1部「オリジナルパーカーを作りに行こう！」を読み、クイズに答える。</li> <li>●第1部の学習内容をワークシート①にまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●お店を選ぶときに何を基準にするのか考えさせる。</li> <li>●契約の基礎知識や契約成立による権利と義務について理解させる。</li> </ul>	ワークシート① ・契約の基礎知識  Web版教材第1章
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●Web版教材第1章第2部「契約するときは、ここに注意！」の質問に答え、契約時の注意についてワークシート①にまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●契約をどのように検討したか、マンガを振り返る。</li> <li>●ポイントチェックとアドバイスを確認させる。</li> <li>●契約時の注意点について伝え、契約することで法的な責任を負うことを理解させる。</li> </ul>	ワークシート① ・契約について振り返ってみよう ・契約時の注意点  Web版教材第1章
展開② 20分	<ul style="list-style-type: none"> <li>●Web版教材第2章第1部「契約はやめられるの？」を読み、未成年者取消権について学習する。</li> <li>●「もっと知りたい2-①」をワークシート①にまとめる。</li> <li>●「もっと知りたい2-②」のチャレンジクイズに答え、ワークシート①にまとめ、契約の取消し・無効になる場合について学習する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●未成年について振り返り、未成年者取消権について伝え、未成年者取消権が使えない場合について確認させる。</li> <li>●契約の取消し・無効になる場合について確認させる。</li> </ul>	ワークシート① ・未成年の契約 ・未成年者取消権が使えない場合 ・チャレンジクイズに挑戦 ・契約の取消し・無効になる場合  Web版教材第2章
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●Web版教材第2章第2部「相手は契約を守ってくれなかったら…」のクイズに答え、ワークシート①にまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●民法の契約解除、法定解除について確認させる。</li> <li>●契約について困ったときは、消費生活センター等の専門窓口相談するよう指導する。</li> </ul>	ワークシート① ・クイズに挑戦 ・法定解除  Web版教材第2章
まとめ 5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>●学習内容をワークシート①にまとめ、発問に答える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●契約に関して基礎知識や未成年の契約、取消し・無効・解除になる場合について理解したかどうか、発問する。</li> </ul>	ワークシート① ・まとめ

【第1章 第1部 「オリジナルパーカーを作りに行こう!J」

【契約の基礎知識】

- ・ 契約は、( 契約書 ) がなくても、( 口約束 ) でも成立する。
- ・ 契約は、契約の ( 申込み ) の意思表示を対して、契約の ( 承諾 ) の意思表示をするこ  
とにより、成立する。
- ・ 契約が成立すると、( 権利 ) と ( 義務 ) が発生する。



- ・ 契約は、( 民法 ) で定められている。

【第1章 第2部 「契約するとき、ここに注意!J」

【契約について振り返ってみよう】

Q1 オリジナルパーカーを作るために、という視点でお店を探していましたか?

- (例) ・ インターネットで、お店のHP、口コミ情報や評価を検索したり、友達に相談したりしていた。  
・ 自分たちの好み・予算・支払方法・作製期間などを検討していた。

Q2 3人は、お店で何を聞いていますか?

- (例) ・ パーカーの生地や色合い、デザインなどについてお店の人と相談していた。  
・ お店のから金額、作製期間、デザイン変更の条件やキャンセルについてなどの契約内容を聞いていた。

Q3 注文書の控えをもらっていましたか?

- (例) ・ 注文書の控えを受け取っていた。

Q4 3人は、なぜ一方的にキャンセルができず、仕方なくオリジナルパーカーを依頼したのでし  
ょうか?

- (例) ・ 注文書に記載があるように、注文確定後のキャンセルはできないため、そのまま作ってもらったことにした。

【契約時の注意点】

- ・ 本当に必要な ( 契約 ) なのかを検討する。
- ・ 契約する相手は、特定ができ、( 信頼 ) できるかどうかを検討する。
- ・ 契約するものやサービスの内容、支払金額、支払方法、解約条件など、( 契約内容 ) を検討する。
- ・ 契約内容がわかる ( 書面 ) 、( 注文書などの控え ) や事業者情報は手元に持つておく。
- ・ インターネット通信販売は、原則、画面上に契約内容などを表示することが義務付けられている。  
事業者情報や契約内容がわかる画面、申込画面や事業者からの承諾メールの画面のコピーをとっ  
ておく。インターネット通信販売は、( クーリング・オフ ) 制度がない。( 返品条件 ) な  
ども確認して検討する。

【第2章 第1部 「契約はやめられるの?J」

【未成年の契約】

- ・ 未成年者は、( 18 ) 歳未満であり、民法で ( 18 ) 歳以上は成年と定められている。
- ・ 未成年者は、親や法定代理の ( 同意 ) がないと契約ができない。ただし、お小遣いの範囲  
の買い物などの例外がある。
- ・ 未成年者が親の同意がなく契約した場合に、あとから取り消すことができることを  
( 未成年者取消権 ) という。

【もっと知りたい2-① 未成年者取消権が使えない場合】

- ・ 契約相手に自分は成人だと嘘を言って、信じさせて結んだ契約の場合
- ・ 法定代理人の同意を得ている場合
- ・ 未成年者がその後成人して追認したり、法定代理人が追認したりした場合
- ・ 取消権が時効になった場合

【もっと知りたい2-② チャレンジクイズに挑戦】正しいと思う番号を答えて、理由を考えてみよう。

Q DVDを購入した際、初回盤AとBがあり、初回盤Aと思い購入したものが、初回盤Bだっ  
た。返品はできるでしょうか。

- 1 間違えて購入したのだから返品できる。
- 2 間違えて購入してしまったのは自分の責任だから返品はできない。

自分の回答

1

理由：(例) 初回盤AとBの2種類があることを知っていたが、見分けがつかず、間違えて購  
入の意思表示をした。DVD購入の意思表示に間違いないが、粗誤とし  
て、この契約を取り消すことができる。

【契約の取消し・無効になる場合】

- ・ 強迫による取消し
- ・ 詐欺による取消し
- ・ 公序良俗違反による無効

【第2章 第2部 「相手が契約を守ってくれなかったら・・・J」

【クイズに挑戦】正しいと思う番号を答えて、理由を考えてみよう。

Q ライブのチケットを購入したが、ライブ当日にタレントの急病によりライブが中止となった。

チケット代の払い戻しを要求できるでしょうか。

- 1 急病という、やむを得ないことなので、チケット代の払い戻しはできない。
- 2 ライブが開催されなかったのだから、チケット代は払い戻しができる。

自分の回答

2

理由：(例) ライブ主催者側の理由でライブの開催ができなくなったから、これを履行不能と  
いい、民法で契約解除ができることが定められている。

【もっと知りたい 法定解除】

- ( 履行不能 )：契約内容が実行される可能性が無い場合のこと
- ( 履行遅滞 )：契約の期日までに契約内容が実際に実行されなかった場合のこと
- ( 不完全履行 )：契約内容は実行されたが、不完全な内容である場合のこと

【第1章と第2章のまとめ】 契約についてわかったことをまとめよう。

(例)

契約は口約束でも成立する。  
契約が成立すると契約当事者に権利と義務が発生するため、一方的に解約できない。  
契約時は、契約内容をよく確認する必要がある。  
未成年者が、親の同意がなく契約した場合は、未成年者取消権という制度がある。但し、取消しができな  
い場合もある。

## 授業展開例② 第3章「若者に多い契約トラブル事例」

### ●題材名 多様化する販売方法と問題商法

### ●本時の目的

- ・販売方法の多様化に伴う問題について理解する。
- ・インターネットによる消費者トラブルについて理解する。
- ・消費者問題について知り、被害を未然に防いだり、早期解決したりするための方法を身に付ける。

### ●指導展開例（次の指導展開例の展開②の一部でWeb版教材を使用している）

時間	主な学習活動	指導上の留意点	教材・資料
導入 5分	● 前回の授業内容を理解しているか確認する。	● 契約の基礎知識や未成年の契約について復習させる。	
展開① 10分	● 多様化する販売方法について考える。	● 販売方法の種類を伝える。 ● インターネットを通じた消費者被害について、身近な例を挙げ、考えさせる。	
展開② 30分	● 問題商法による被害を未然に防ぎ、早期解決する方法を考える。	● 問題商法や被害にあった場合の解決方法についても理解させる。	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● Web版教材第3章「若者に多い契約トラブル事例」の契約トラブル事例①～④を確認する。</li> <li>● 契約トラブルの原因について考え、ワークシート②にまとめる。</li> <li>● 解説を参考に、解約や契約時のポイントをワークシート②にまとめる。</li> <li>● Web版教材第3章「若者に多い契約トラブル事例」のチャレンジクイズ①～⑤に取り組み、ワークシート②にまとめる。</li> <li>● 解説とまとめを確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 実際に若者に多い契約トラブルの事例であること伝える。</li> <li>● 契約トラブル事例について、トラブルとなったきっかけや原因について考えさせ、注意しなければならないことに気付かせる。</li> <li>● 解約や契約時のポイントを確認させる。</li> <li>● クーリング・オフ制度を利用できるか考えさせる。</li> <li>● 特定商取引法の契約に係る内容を理解させる。</li> <li>● 消費生活センター等に相談することは、自分自身の被害救済だけでなく、他の人の被害防止や制度の改善につながることを理解させる。</li> </ul>	ワークシート② ・事例ワーク ・チャレンジクイズに挑戦  Web版教材第3章
まとめ 5分	● 学習内容をワークシートにまとめ、発問に答える。	● 多様化する販売方法やインターネットによる消費者トラブル、問題商法について理解したかどうか、発問する。	



<p>【家庭】ワークシート②</p> <p>年 組 名前 ( )</p>	<div data-bbox="212 1115 331 2022"> <p>【第3章「若者に多い契約トラブル」】</p> <p>【契約トラブル】</p> <p>【事例ワーク】 次の事例から、トラブルにあった原因を考え、注意点と対応策についてまとめよう。</p> <p><b>事例①</b></p> <p>企業説明会場の近くで、就職活動に関するアンケートを求められ、名前と連絡先を書いた。後日、営業員から電話で「無料の就活セミナーを受けませんか。」と誘われ、「無料セミナー」を受けた後に、有料のセミナーに勧誘された。就活に失敗した人の動画を見せられ、不安になり、その場で30万円の就活セミナーに申し込んだ。</p> <p>◆<b>トラブルにあった原因</b></p> <p>(例) 無料セミナーに参加したはずが、事業者から就活活動について不安をあおられ、突然有料セミナーに勧誘された。</p> </div> <div data-bbox="331 1115 555 2022"> <p>◆<b>注意点と対応策</b></p> <p>(例) 消費者契約法により、契約を取り消すことができる。</p> <p>事業者側が、本来の目的を告げず呼び出している。</p> <p>アポイントメントセールのため、特定商取引法で、クーリング・オフ制度が設けられている。</p> </div> <div data-bbox="555 1115 820 2022"> <p><b>事例②</b></p> <p>知り合いに「1回だけ無料で脱毛エステを受けられる」と誘われ、エステティックサロンに出かけた。無料の脱毛エステの施術後、1年間回数無制限の全身脱毛コース45万円(月々1万5千円×36回払い)を勧誘されて、分割払いなら大丈夫だと考え、その場で契約した。</p> <p>◆<b>トラブルにあった原因</b></p> <p>(例) 脱毛エステの施術目標達成が不確かであるにもかかわらず、その場の雰囲気や勧誘で契約してしまった。</p> <p>◆<b>注意点と対応策</b></p> <p>(例) 脱毛などの特徴のあるサービスは、特定商取引法でクーリング・オフ制度が設けられている。</p> <p>書面を受け取ってから8日間以内であれば、何の理由もなく契約解除ができる。</p> <p>分割払いの場合、支払期間や支払総額を確認することが大切である。</p> </div> <div data-bbox="820 1115 1142 2022"> <p><b>事例③</b></p> <p>友人から投資に誘われ、その友人のサポートをしているという先輩から「銀行に預けるよりも投資をしたほうが得」という話を聞いた。数日後、その先輩から連絡があり、「初心者投資でもうけを出すためには、50万円の自動売買アプリを購入する必要がある」と説明された。高額だと思ったが、「アプリを使えば簡単にもうけが出るので購入代金はカバーできる」と、このアプリは会員制なので入会者を招けば1人につき5万円の利益がある」と言われ、学生ローンで借金をして契約した。</p> <p>◆<b>トラブルにあった原因</b></p> <p>(例) いわゆるマルチ商法の連鎖販売取引(いわゆるマルチ商法)に該当する可能性がある。</p> <p>学生ローンを組んでまでもうけ話ののってしまった。</p> <p>◆<b>注意点と対応策</b></p> <p>(例) 特定商取引法の連鎖販売取引(いわゆるマルチ商法)に該当する可能性がある。</p> <p>マルチ商法の場合、書面を受け取ってから20日間以内であれば、何の理由もなく契約解除ができる。</p> <p>自分の借金返済のために友人を入会させて利益を得ようとする、被害者だったはずが加害者になってしまう。</p> <p>「簡単にもうかる話」など、ないことを知っておく。</p> </div> <div data-bbox="1142 1115 1458 2022"> <p><b>事例④</b></p> <p>スマートフォンで「新人モデル発掘オーディション」という広告を見て応募し、書類選考合格の連絡があり、オンライン面接を受けた。面接の翌日合格を告げられ、事務所に案内したところ、「合格ではあるが、モデルとして仕事をするためには、1年程度レッスンを受けてもらわなければならない。入会金40万円のほか、レッスン費用は毎月2～3万円かかる」と言われた。モデルになれるチャンスだと思い、その場で契約した。</p> <p>◆<b>トラブルにあった原因</b></p> <p>(例) オーディション合格を理由に呼び出されたところ、突然、レッスン契約の勧誘を受け、冷静に判断できない状況で契約してしまった。</p> <p>◆<b>注意点と対応策</b></p> <p>(例) 事業者側が、本来の目的を告げず呼び出している。</p> <p>アポイントメントセールのため、特定商取引法で、クーリング・オフ制度が設けられている。</p> <p>入会金40万円について、契約書面に「入会金は、いかなる事情があっても返金しません」の記載がある場合、この契約条項は無効になる可能性があるため、消費生活センターに相談する。</p> </div>
--------------------------------------	--

<p>【チャレンジクイズに挑戦】</p> <p><b>チャレンジクイズ①</b></p>	<p>路上で呼び止められて「近くでアークセサリーの展示会をしているから見に来て」といわれ、近くの宝石店に連れていかれた。そこでネックレスを買ってしまったが、家に帰ってから、高額だし買ったことを後悔した。</p> <p>◆<b>ポイント</b></p> <p>街中や店舗以外の場所で呼び止められて、近くのお店などに連れて行き商品などの販売をする( <b>キャッチセールス</b> ) には、クーリング・オフ制度が適用される。</p> <p>◆<b>事例から考えたこと</b></p> <p>(例) キャッチセールスで商品を購入した場合は、<b>クーリング・オフ制度が適用されるが、その場で契約せず、よく考えて判断することが大切である。</b></p>
<p><b>チャレンジクイズ②</b></p>	<p>インターネットショッピングでスニーカーを購入したが、届いた商品は思っていたイメージと違っていた。</p> <p>◆<b>ポイント</b></p> <p>インターネットショッピングは特定商取引法の「通信販売」だが、( <b>クーリング・オフ</b> ) 制度はない。</p> <p>◆<b>事例から考えたこと</b></p> <p>インターネット通信販売では、( <b>返品に関すること</b> ) を広告に表示することになっている。</p> <p>(例) インターネットショッピングには、<b>クーリング・オフ制度がないことを理解した上で、返品可否や条件について確認する必要がある。</b></p>
<p><b>チャレンジクイズ③</b></p>	<p>中古車を購入した。販売店からは、事故歴がないと言われていたのに、購入後間もなく整備に出したところ、実は事故歴があることが分かった。</p> <p>◆<b>ポイント</b></p> <p>( <b>消費者契約法</b> ) では、勧誘に際して事業者が重要事項について事実と異なることを告げて(これを「不実告知」という)、消費者が事実でないことを事実と誤認して契約した場合、契約を取り消すことができるとしている。</p> <p>◆<b>事例から考えたこと</b></p> <p>(例) 中古車を購入する場合は、<b>事故歴の有無は重要な事項となるため、正確な情報を収集することが大切である。</b></p>
<p><b>チャレンジクイズ④</b></p>	<p>証券会社の担当者から電話で「OO会社の株は、今後絶対値上がりする。間違いないから、今買っておいだ方がいい」と勧誘され、買うことにしたが、その後、株は大幅に下がりが大損してしまった。</p> <p>◆<b>ポイント</b></p> <p>( <b>消費者契約法</b> ) では、事業者が将来の見通しが不確実なことについて断定的なことを告げたことによって、消費者が確実と誤認して契約した場合、その契約を( <b>取り消すこと</b> )ができることとされている。</p> <p>◆<b>事例から考えたこと</b></p> <p>(例) 株式の値動きは不確実であり、「絶対値上がりする」「間違いないから」と断定することはできないこととし、もうけ話には注意したい。</p>
<p><b>チャレンジクイズ⑤</b></p>	<p>マンションを購入しようと思っていた時に、事業者から新築マンション建設の話を受けた。眺めも日当たりも良さそうだったため購入契約をしたが、マンションの隣に高層マンションの建設計画があることを知った。営業員はそれを知らなかった。</p> <p>◆<b>ポイント</b></p> <p>事業者が消費者にとっても有利なことだけを言い、不利益なことを故意に告げなかったため、消費者が不利益な事実がないと誤認して( <b>契約</b> )をした場合、消費者契約法では、( <b>不利益な事実の告知</b> )として契約を取り消すことができることと定めている。</p> <p>◆<b>事例から考えたこと</b></p> <p>(例) 不動産は大きな買い物なので、条件の比較、検討を行うとともに、トラブルに遭遇してしまった場合の対処法についても事前に調べておきたい。</p>

令和 3 年度高校生向け Web 版消費者教育読本

## 「大人になる君へ 社会で役立つ契約知識」

消費者教育読本作成検討会委員（令和 3 年度）

座長	樋口 雅夫	玉川大学教育学部教育学科 教授
委員	平澤 慎一	弁護士
委員	浅川 貴広	東京都立蒲田高等学校 主幹教諭
委員	宗川 良子	東京都教育庁指導部高等学校教育指導課 指導主事

発行

東京都消費生活総合センター

〒162 - 0823 東京都新宿区神楽河岸 1 - 1 セントラルプラザ 16 階

TEL : 03 - 3235 - 1157

東京暮らし WEB : <https://www.shouhiseikatu.metro.tokyo.lg.jp/>

デザイン

株式会社 政策基礎研究所（E B P）

〒110-0016 東京都台東区台東 1-24-1 燦坤（サンクン）日本電器ビル 7F

TEL : 03-6280-3569（代表）

令和 4 年（2022 年）3 月 初版発行